

令和5年度実施

令和4年度

教育に関する事務の管理及び執行状況
点検・評価報告書

令和5年10月

米子市日吉津村中学校組合教育委員会

目 次

1	点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
2	米子市日吉津村中学校組合教育委員会について・・・・・・・・	P. 1
3	箕蚊屋中学校の状況・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 1
4	教育委員会の構成及び会議の開催状況・・・・・・・・	P. 2
5	教育委員会での審議状況・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 2
6	点検・評価と米子市教育振興基本計画との関係 について・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
7	点検・評価の方法について・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 3
8	点検・評価結果の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 4
9	点検・評価票・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 7
10	学識経験者の知見・・・・・・・・・・・・・・・・	P. 35
付録	米子市教育振興基本計画体系図・・・・・・・・	P. 36

1 点検・評価の目的

米子市日吉津村中学校組合教育委員会では、平成20年度から毎年、教育行政事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表しています。（「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地方教育行政法」という。）第26条の規定に基づく点検・評価及び公表）

その目的は、自ら事務の管理及び執行状況について点検・評価を行い、課題や問題点を明らかにすることにより、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たしていこうとするものです。

2 米子市日吉津村中学校組合教育委員会について

米子市日吉津村中学校組合は、組合を組織する米子市（巖地区、春日地区及び伯仙地区）と日吉津村の中学校事務を共同処理するため、組合立箕蚊屋中学校を設置し、箕蚊屋中学校に関する教育事務を管理執行するもので、組合の執行機関としての教育委員会は、地方教育行政法第21条に規定する事務を管理執行しています。

3 箕蚊屋中学校の状況

箕蚊屋中学校の状況は次のとおりです。

(1) 生徒数及び学級数（令和4年5月1日現在） （単位：人、学級）

区分	1学年	2学年	3学年	特別支援	合計
男子	71	66	86	10	233
女子	70	55	62	7	194
合計	141	121	148	17	427
学級数	5	4	5	4	18

(2) 学校施設

区 分	施 設 規 模	
校地面積	27,935 m ²	
建物延べ床面積	6,529 m ²	
内 訳	本校舎	鉄筋コンクリート造3階建（3,107 m ² ）
	特別教室棟	鉄骨造2階建（1,690 m ² ）
	体育館	鉄骨造平屋建（936 m ² ）
	武道館	鉄骨造平屋建（300 m ² ）
	その他	部室、倉庫、灯油庫、プロパン庫（計424 m ² ）
プール施設	2,242 m ² （建物部分は72 m ² ）	

4 教育委員会の構成及び会議の開催状況

(1) 教育委員会の構成

米子市日吉津村中学校組合教育委員会委員名簿 (R4. 4. 1～R5. 3. 31)

職名	氏名	任期	備考
委員	井田博之	R3. 10. 29～R7. 10. 28	教育長職務代理者 日吉津村教育委員会教育長
委員	白井靖二	R4. 10. 24～R8. 10. 23	米子市教育委員会委員
委員	松本公文	R1. 10. 27～R5. 10. 26	日吉津村教育委員会委員
委員	三瓶文乃	R2. 10. 4～R6. 10. 3	米子市教育委員会委員
教育長	浦林実	R4. 10. 4～R7. 10. 3	米子市教育委員会教育長

(2) 会議の開催状況

教育委員会の会議は必要に応じて開催し、令和4年度は4回開催しています。

5 教育委員会での審議状況

教育委員会で令和4年度に審議したものは、次のとおりです。

※議案番号は、暦年で付しています。

- 令和4年米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和4年9月28日）
 - 議案第5号 令和3年度教育に関する事務の管理及び執行状況の点検・評価について
 - 議案第6号 令和4年度米子市日吉津村中学校組合一般会計補正予算（補正第1回）について
- 令和5年第1回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和5年2月3日）
 - 議案第1号 米子市日吉津村中学校組合教育委員会公印規則の一部を改正する規則の制定について
- 令和5年第2回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和5年3月9日）
 - 議案第2号 組合立学校の県費負担教職員の異動の内申について
- 令和5年第3回米子市日吉津村中学校組合教育委員会（令和5年3月16日）
 - 議案第3号 令和4年度米子市日吉津村中学校組合一般会計補正予算（補正第2回）について
 - 議案第4号 令和5年度米子市日吉津村中学校組合一般会計予算について

6 点検・評価と米子市教育振興基本計画との関係について

米子市教育委員会では、令和4年2月に新たに米子市教育振興基本計画を策定し、計画期間を令和4年度から令和8年度までとしています。

箕蚊屋中学校は、米子市日吉津村中学校組合立の学校ですが、運用として米子市立中学校と一体的に扱われ、同一步調の教育方針により教育が推進されています。

このため、学習指導、生徒指導等に関する教育はもとより、学校運営に関する事務についても米子市立中学校と同様に処理されています。

令和4年度に実施した事務の管理及び執行状況の点検・評価に当たり、本組合教育委員会は、関係する8つの基本施策について、その推進状況や課題等を踏まえて評価を行いました。

令和4年度事務の管理及び執行状況において点検・評価した基本施策

- 基本施策1-1 豊かな心と創造性をもった子どもの育成
- 基本施策1-2 安全で安心な学校施設の改善
- 基本施策1-4 学校のICT環境の整備
- 基本施策1-5 通学路の安全確保
- 基本施策1-6 学校図書館の充実
- 基本施策2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成
- 基本施策3-4 学びあう地域づくりの支援
- 基本施策4-1 健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成

7 点検・評価の方法について

(1) 点検・評価の流れ

各担当課において、基本施策に該当する「主な取組（個別事業）」について点検・評価を行い、その結果を総合して基本施策の評価を行いました。

次に、教育委員会事務局において、各担当課の評価を参考にして、基本施策の評価を行いました。

最後に、教育委員会が教育委員会事務局の評価を参考にして、基本施策の評価を行いました。

(2) 点検・評価の区分

①「主な取組（個別事業）」（様式2）

「主な取組（個別事業）」の点検・評価については、取組状況及び数値目標に対する実績を評価基準に基づき◎、○、△、×の4段階で評価しました。

評価区分は次のとおりとし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により取組状況に影響があった場合は、「新型コロナウイルス感染症の影響あり」としました。

評価区分		内 容
◎	達成	優れた取組や状況等が見られ、数値目標が100%以上となり、順調に目標が達成されたもの
○	概ね達成	良い取組や状況等が見られ、数値目標が80%以上となり、概ね順調に目標が達成されたもの
△	あまり達成できなかった	課題が少なからずあり、数値目標が80%未満となり、目標があまり達成できなかったもの または、一定の成果はあったが新たな課題が生じたもの
×	未達成	課題が多く、まだ改善に向けた取組に着手できていないか、着手してもほとんど成果が上がらないなど、目標がほとんど達成できなかったもの

②「基本施策評価（総合評価）」（様式1）

「基本施策評価（総合評価）」については、主な取組（事務事業名）の評価及び取組状況の総括を参考に、基本計画の計画期間（令和4年度～令和8年度）において、評価年度での基本施策の到達度の観点から、総合的にSからDの5段階で評価しました。

評価区分		内 容
S	目標達成	基本施策において、取組の目標が順調に達成され、優れた成果があったもの
A	順調	基本施策において、取組の進捗状況が順調なもの
B	概ね順調	基本施策において、取組の進捗状況が概ね順調なもの
C	やや遅れている	基本施策において、取組の進捗状況がやや遅れているもの
D	遅れている	基本施策において、取組の進捗状況が遅れ、見直しが必要となるもの

8 点検・評価結果の概要

(1) 総合評価

評価した8つの基本施策のうち、目標達成されたもの（S）は2施策、順調としたもの（A）は3施策、概ね順調としたもの（B）は3施策、やや遅れている、

遅れているもの（C，D）はありませんでした。

新型コロナウイルス感染症の影響により、取組に支障が生じたものが見られましたが、全体としては概ね順調に進捗したものと評価しています。ただし、順調なもの（A）、概ね順調なもの（B）と評価した基本施策においても、主な取組（個別事業）には、概ね達成（○）のものもあることから、個別に課題のある事業について、数値目標への対応を図っていく必要があります。

(2) 基本施策ごとの評価

基 本 施 策	評 価
1-1 豊かな心と創造性をもった子どもの育成	S
1-2 安全で安心な学校施設の改善	B
1-4 学校のICT環境の整備	B
1-5 通学路の安全確保	A
1-6 学校図書館の充実	A
2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成	A
3-4 学びあう地域づくりの支援	B
4-1 健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成	S

基本施策ごとに見ると、「豊かな心と創造性をもった子どもの育成」では、『「教育支援センター～ぷらっとホーム～」の開設、「米子市校内サポート教室」の拡充など様々な体制が整い、好循環が生まれてきたことは評価できるが、依然として不登校の児童生徒が多いことから、教育支援センターの更なる機能の充実あるいは児童生徒が登校しやすい学級、学校作りを進めることが必要である。』との意見がありました。また、『学校教育においては、数値目標がそぐわない側面もあるので、全国平均値も含め多面的な数値で事業を評価することが大切である。』との見識がありました。

「学校ICT環境の整備」では、『学習用タブレット端末の取扱いについて、学校現場で、もう少し使い方の指導をするなど注意喚起し、故障を防止できるように努めてほしい。また、タブレット端末の軽易な修繕については、職員自らが行うなど、工夫しながらICT機器の整備を行ったことは評価できる。』との意見がありました。

「確かな学力を身につけた子どもの育成」では、『学校の働き方改革として、教員の時間外勤務の縮減に取り組んでいるが、依然として教員は多忙であるので、児童生徒の学力向上に集中して取り組める環境を整える必要がある。』との意見がありました。そのほか、『多額の費用を投じてタブレット端末を設置したことが無駄にならないように、しっかり活用してほしい。実際

の授業で使えるように、その頻度をどう上げるかというのは、学校教育の大きなポイントである。』との見識がありました。

「健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成」では、『情報モラルだけではなく、情報リテラシーの問題も時間を取って学習してもらいたい。』との意見がありました。

9 点検・評価票

基本施策の点検・評価（様式1）に続けて個別事業の評価票（様式2）を掲載しております。

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-1	所管課	学校教育課
	項目名	豊かな心と創造性をもった子どもの育成		
	概要	<p>昨今の子どもたちには、他者と協調する力や人を思いやる心、感動する心、自尊感情の希薄さが見受けられる。また、そうした背景の中で起こるいじめ、不登校、学級が機能しない状況など、様々な課題が見られる。</p> <p>そこで、自他を尊重する態度の育成と生徒の自主的・自発的な活動を小・中学校が連携して推進するため、様々な分野の教育の充実に努める。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	心の教育の充実		◎
	②	人権教育の充実		◎
	③	生徒指導の充実		○
	④	ふるさと・キャリア教育の充実		◎
取組状況の総括	【成果】			
	<p>小中一貫教育推進事業や人権教育推進事業の推進によって、生徒の自治力の向上や人権教育の充実に図ることができた。スクールソーシャルワーカーが校区担当として配置され、学校と協働しながら効果的な運営を行うことにより、多くの生徒やその家庭への支援を行うことができた。不登校生徒の新たな学びの場として、「教育支援センター～ぷらっとホーム～」が開設されるとともに、校内での居場所を整備することができた。</p>			
基本施策評価(総合評価)	【課題・今後の対応】			
	<p>不登校生徒数は依然として多いことから、多様な学びの場や居場所を拡充していくとともに、より効果的な運営や他機関との連携体制を整備・充実していく必要がある。</p>			
基本施策評価(総合評価)	S			
評価理由	各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。			
教育委員の意見・指摘	<p>「教育支援センター～ぷらっとホーム」の開設など様々な体制が整い、好循環が生まれてきたことは評価できるが、依然として不登校の生徒がいることから、教育支援センターの更なる機能の充実あるいは生徒が登校しやすい学級、学校作りを進める必要がある。</p> <p>また、生徒指導の充実については、スクールソーシャルワーカーがコーディネートすることによる学校の取組の更なる活性化がより一層必要である。</p>			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな人間性と創造力を 持った子どもの育成	主な取組	①心の教育の充実
2 事務事業名	米子市版小中一貫教育推進 事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	義務教育9年間の学びを連続したものにとらえ、中学校区で「めざす子ども像」を共有し、内容を系統化したり、指導を継続化したりすることによって、学校教育における課題を解決し、確かな学力の定着や豊かな人間性と創造力の育成を図る。		
4 目 標	【目標】 中学校区において、小・中学生によるリーダー研修会を定期的に開催することで、校内及び地域における生徒の自主的・自発的な活動のより一層の推進を図る。		
	【前年度からの改善方法】 これまで、生徒の自主的・自発的な取組は校内での活動が中心であった。そこで、今後のコミュニティ・スクールを想定し、生徒が学校のみならず地域へも目を向けることができるような仕掛けを行い、地域の方との交流を通して、ともに活動を行う機会を設定する。		
	【数値目標】 ①小・中学生合同リーダー研修会を前年度と同数以上開催する。 (令和3年度：2回) ②生徒が地域と連携して活動する機会を前年度と同数以上設ける。 (令和3年度：1回)		
5 取組状況・成果	【取組状況】 コロナ禍において、リモートを活用しながら小・中学生合同のリーダー研修会を開催した。研修会では学校の課題等について話し合い、改善に向けての施策について協議した。生徒の自主的・自発的な取組は校内だけでなく地域へも広げた。具体的には、生徒が地域行事の一部を企画・運営したり、ボランティアとして参加したりした。		
	【成果】 リモートも活用しながら昨年同様にリーダー研修会を2回開催できた。小・中合同のリーダー研修会では、各学校と地域の課題等について話し合った。本年度は、生徒が積極的に地域行事に参加し、地域の方との交流を深めることができた。		
	【数値目標の実績値】 ・リーダー研修会を年2回以上開催 年2回開催 ・生徒による地域活動 年6回実施		
6 課題・今後の対応	小・中学生の合同リーダー研修会は、リモートも活用しながら昨年と同数の2回開催できた。今後は話し合いの内容をより充実させながら、各学期に1回(年3回)の開催を目指す。一方、生徒の自主的・自発的な取組は、活動場所が校内から地域へと広がり、地域行事へのボランティア参加を中心に活動回数も増えている。今後は活動内容を充実させながら、コミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育推進を図りたい。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな人間性と創造力を持った子どもの育成	主な取組	②人権教育の充実
2 事務事業名	人権教育推進事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	人権教育の充実を図り、自他の生命や人権を尊重し、仲間と共に差別をなくす実践力を持った生徒を育成する。		
4 目 標	【目標】 生徒の発達段階等に応じて、学校における人権教育に関する教材や指導方法等の改善を図る。		
	【前年度からの改善方法】 就学前から中学校卒業までの人権教育の取組をまとめた「15年プラン」を見直すなど、更なる中学校区の連携を図る。 「人権・同和教育教材・学習モデル集」について、教材の作成にとどまらず、効果的な指導方法についてもあわせて示していく。		
	【数値目標】 米子市独自調査において、「人権学習をしてきて、自分のためになった」と回答した生徒の割合が参考値と同値または上回る。 <参考値>R4 米子市平均値…81.4%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 中学校区で「15年プラン」の見直しを行うとともに、年間指導計画や教材をもとに人権学習について協議を行った。 「人権・同和教育教材・学習モデル集」については、育てたい資質・能力や指導上の留意点等を事務局と協議しながら作成した。		
	【成果】 「15年プラン」の見直しや人権学習について協議することにより、中学校区での連携や系統的な学習について共通理解を図ることができた。 中学校において、「人権・同和教育教材・学習モデル集」を令和4年度末に完成することができた。		
	【数値目標の実績値】 米子市独自調査において、「人権学習をしてきて、自分のためになった」と回答した生徒の割合が参考値を上回った。 R4…82.4%		
6 課題・今後の対応	人権教育教材集を活用した授業づくりに関する研修会を開催し、好事例を紹介したり、効果的な活用方法を協議したりしながら、人権教育教材集の更なる活用の充実を図っていきたい。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	③生徒指導の充実(1)
2 事務事業名	スクールソーシャルワーカー活用事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	学校における生徒指導上の諸課題に対し、学校・児童生徒・保護者へ福祉的な視点で多様な支援を行うために、スクールソーシャルワーカー（以下「SSWR」という。）を継続的に配置・活用する。		
4 目標	【目標】 SSWRが学校と家庭、関係機関との連絡調整を行い、福祉的な視点に基づいたアセスメントやプランニングを行い、多様な支援を実施することで、生徒指導上の諸課題の未然防止や改善を図る。		
	【前年度からの改善方法】 SSWRの体制を拡充し、校区担当のSSWRを配置することで、高まっているニーズに対応するとともに、これまで以上に、迅速かつ細やかな対応ができるよう体制を整備する。		
	【数値目標】 支援を行った生徒数ならびに支援を行った生徒の状況が好転したケース数が昨年度と同数または上回る。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 学校からの多様な相談事案に対して、SSWRを校区担当として配置し、機関連携の窓口として一本化したり、学校訪問回数を増やしたりしながら継続的に対応した。 また、定期的にSSWR連絡会やスーパーバイザーとの協議を行った。		
	【成果】 校区担当SSWRが学校と協働しながら、定例会等の効果的な運営につなげることができた。また、より多くの生徒やその家庭への支援につなげることができた。その過程で、定期的な連絡会やスーパーバイザーとの協議を行うことで、多面的な支援につなげることができた。 SSWRが機関連携の窓口として一本化されたことから、各機関の連携がスムーズになったり、役割の共通理解が図られたりし、より専門性を発揮できる環境となった。		
	【数値目標の実績値】 支援を行った生徒数ならびに支援を行った生徒の状況が好転したケース数が昨年度を上回った。		
6 課題・今後の対応	SSWRの体制を拡充したものの、相談等のニーズが多様化していることや、状況の好転に時間がかかるケースが多いことから、体制の更なる充実を図る必要がある。 SSWRの配置・運用について、より効果的な活用を模索する。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	③生徒指導の充実(2)
2 事務事業名	いじめ・不登校対応	所管課	学校教育課
3 事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・小・中連携、機関連携をより一層推進し、近年増加傾向にある生徒指導上の諸課題に対し、未然防止、早期支援、効果的な支援が行えるよう、各学校の教職員の意識向上や学校体制の整備を図る。 ・喫緊の課題である不登校について、新たな不登校が生じない体制づくりと不登校生徒への支援をより一層充実する。 		
4 目 標	【目標】 中学校区での安心・安全な学校づくりの取組を充実する。いじめの未然防止、早期発見、早期解決に向けた学校体制を整備する。不登校生徒数の減少と不登校生徒に対する支援の充実を目指す。		
	【前年度からの改善方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・校内での居場所づくりや「教育支援センター～ぷらっとホーム～」との連携により、多様な学びの場の充実を図る。 ・中学校生徒指導部会や校区担当スクールソーシャルワーカーと連携を図り、学校体制や機関連携の充実を図る。 		
	【数値目標】 「児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する調査」において、不登校生徒の割合が参考値を下回る。 不登校生徒のうち、年度末時点で前向きな変容が見られた生徒の割合が昨年度を上回る。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・自治の取組における児童生徒や教職員の交流については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況に配慮しながら実施した。 ・8月に開設された教育支援センターや校区担当SSWRと連携し、不登校生徒への支援の充実を図った。「こども総合支援会議」(年3回)や中学校生徒指導部会(毎月)において、生徒指導上の諸課題についての現状と対応について、情報共有や協議を行った。 		
	【成果】 コロナ禍においても、中学校区で小中交流や自治の取組を推進し、自分たちの学校を自分たちでよりよくしていこうとする風土の醸成につながった。多様な学びの場・居場所を拡充し、学校復帰のきっかけづくりや社会的自立に向けた支援の充実を図ったことで、不登校生徒の前向きな変容が見られた。		
	【数値目標の実績値】 「児童生徒の問題行動・不登校等の生徒指導上の諸課題に関する調査」において、不登校生徒の割合が参考値を上回った。 不登校生徒のうち、年度末時点で前向きな変容が見られた生徒の割合が昨年度を上回った。		
6 課題・今後の対応	不登校は依然として大きな課題であることから、新たな不登校が生じない体制づくりと多様な学びの機会の拡充を図る必要がある。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-1 豊かな心と創造性をもった 子どもの育成	主な取組	④ふるさと・キャリア教育 の充実
2 事務事業名	米子市ふるさと・キャリア 教育推進事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	ふるさとに誇りをもち、生きる基盤を培う「ふるさと教育」と、その基盤の上に自らの生き方の道筋を描く「キャリア教育」とを相互に関わらせた「ふるさと・キャリア教育」を位置付け、各教科等を横断した教育活動を行う。		
4 目 標	【目標】 様々な学習の中で家庭や地域とのつながりを実感し、自らが暮らす地域に誇りや愛着をもち、自信を持って自己実現に向かうことができる生徒の育成を図る。		
	【前年度からの改善方法】 中学校において、一貫した教育ができるように計画を立て、生徒一人一人が「キャリア・パスポート」を活用する。また、前年度に職場体験学習などが実施できなかったことから、コロナ禍でも実施できる方法を検討する。		
	【数値目標】 ①全国学力・学習状況調査において、将来の夢や目標をもっていると回答する生徒の割合が参考値と同値または上回る。 <参考値> R3…65.4% ②ゲストティーチャーを活用する。 (R3…0人)		
5 取組状況・成果	【取組状況】 中学校において、ふるさと・キャリア教育を年間計画に位置付け、生徒一人一人が「キャリア・パスポート」を活用し、記録を残した。また、新型コロナウイルス感染症の状況に応じて、職場体験学習などに代えてゲストティーチャーを招いた学習を実施した。		
	【成果】 中学校において、「キャリア・パスポート」活用し、学びの記録を残すことができた。また、コロナ禍においても地域の人材や教材に触れるために、ゲストティーチャーを招いた学習やオンラインを活用した学習を実施したことで、新たな地域の人材から学ぶことができた。		
	【数値目標の実績値】 ①R4…71.8% ②R4…2人		
6 課題・今後の対応	今後も将来の夢や目標をもつ生徒が少しでも多くなるように「キャリア・パスポート」の記録を生かしながら学習を進めていく必要がある。また、コミュニティ・スクールの拡大に伴い、新たな地域人材や教材に触れる学習を模索していきたい。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-2	所管課	こども施設課
	項目名	安全で安心な学校施設の改善		
	概要	老朽化が進行している学校施設について、生徒の安全安心を確保し、適切な教育環境を維持するため、適時、必要な改修等を実施し、教育環境の維持・改善を図る。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学校施設整備(改修)事業		○
取組状況の総括	【成果】			
	<p>令和4年度は、突発的な修繕対応として、正面玄関付近で発生していた雨漏りを止めるための玄関上部の防水修繕を行った。</p> <p>また、大型バスの進入路確保及び自転車で通学する生徒の安全確保を図るための、学校敷地への進入路の拡幅工事を行い、教育環境の改善を図った。</p>			
取組状況の総括	【課題・今後の対応】			
	<p>引き続き生徒の安全安心を確保し、教育環境を維持・改善するために必要な改修等を行っていくが、管理・普通教室棟は老朽化が進行しており、適切なタイミングで老朽化対策の修繕工事を進めていく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	B			
評価理由	雨漏りに対し速やかに修繕対応し構造躯体の保全に努めたこと、また、計画していた進入路の拡幅工事について、計画どおり実施したことで教育環境の改善を図ることができたため。			
教育委員の 意見・指摘	建築から相当な年数が経過していることから、大規模改修工事の見通しを持ちつつ、計画的に修繕計画を立てて、安全・安心な施設環境の維持に努めてほしい。			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-2 安全で安心な学校施設の改善	主な取組	①学校施設整備(改修)事業
2 事務事業名	中学校施設維持管理費	所管課	こども施設課
3 事業の概要	生徒の安全に関わるもの、授業などに影響を及ぼすもの及び施設を維持する上で必要なもの等の整備(改修等)を行う。		
4 目標	【目標】 生徒の安全に関わるもの、授業などに影響を及ぼすもの及び施設を維持する上で必要なものとして、以下の整備を行う。 ・進入路拡幅工事(大型バスの進入路確保及び自転車通学者の安全確保)		
	【前年度からの改善方法】 引き続き、生徒の安全に関わるもの、授業に影響を及ぼすものから優先して対応していく。		
	【数値目標】 計画した工事の実施率 100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 計画していた大型バスの進入路確保と自転車通学者の安全確保を目的とした進入路拡幅工事を行うとともに、玄関付近で発生していた雨漏りへの対応として防水修繕を行った。		
	【成果】 ・進入路拡幅工事により、大型バスが直接敷地内に進入できるようになり、利便性が向上した。また、自転車通学の生徒の安全性が向上した。 ・防水修繕により、安全性の向上及び建物の劣化の軽減を図った。		
	【数値目標の実績値】 計画した工事の実施率 100%		
6 課題・今後の対応	引き続き生徒の安全安心を確保し、教育環境を維持・改善するために必要な改修等を行っていくが、管理・普通教室棟は老朽化が進行しており、適切なタイミングで長寿命化等の老朽化対策を進めていく必要がある。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-4	所管課	こども施設課 学校教育課
	項目名	学校ICT環境の整備		
	概要	ICT機器の利用が生徒の学習への興味関心を高め、教え合い学び合う協働学習にも有効と考えられることから、これまで整備したインフラ、ICT機器を保守管理して活用し、併せて学校業務支援システムの活用により、教育の情報化の推進を図る。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	ICT機器整備事業		○
取組状況の総括	【成果】 令和2年度に配備した学習用タブレット端末及び高速無線ネットワーク網の保守管理を行い、機器の故障等による学習環境への影響を最小限に留めた。また、タブレット端末の軽易な修繕については職員が自前で行うなどコストの軽減を図った。 また、ICT担当教員を対象として、学習指導へのICTの活用に関する研修を米子市とともに開催し、参加者を通じて教職員全体のスキルアップを図った。			
	【課題・今後の対応】 引き続きタブレット端末や高速無線ネットワーク網を適正な状態に維持するとともに、効果的なICTの活用が図られるよう、教職員に向けた研修を実施していく必要がある。 また、今後は、一人一台の端末やネットワーク機器について、適切なタイミングで更新を行っていくことが大きな課題となってくる。			
基本施策評価 (総合評価)	B			
評価理由	適切な修繕、メンテナンスを行うことにより学習指導への影響を最小限に留めることができたが、タブレット端末及びネットワーク機器の保守管理や教職員に対する研修については、継続的に行っていく必要があるため。			
教育委員の 意見・指摘	学習用タブレット端末の取扱いについて、学校現場で使い方を指導するなどの注意喚起やハード的な対策の研究により、故障を防止できるように努めてほしい。また、タブレット端末の軽易な修繕については、職員自らが行うなど、工夫しながらICT機器の整備を行ったことは評価できる。 端末の更新時期が近づいていることから、国への要望は継続してほしい。			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-4 学校ICT環境の整備	主な取組	①ICT機器整備事業
2 事務事業名	教育用パソコン管理事業	所管課	こども施設課 学校教育課
3 事業の概要	教育用パソコン等の機器の更新、タブレット端末等の整備、及び無線LAN機器の環境整備を進める。		
4 目 標	【目標】 生徒に配布している学習用タブレット端末の修繕、校内ネットワーク環境の保守管理を行うとともに、教職員向けのICT活用に関する研修を実施し、効果的なICT活用が図られるような環境整備に努める。		
	【前年度からの改善方法】 引き続き、クラウドでのネットワーク監視、学習用タブレット端末のサポートセンターなどを活用しながら校内のICT環境の保守管理を行う。 学習用タブレット端末の活用に係る対面式研修を実施し、教員のICTへの理解度を深める。		
	【数値目標】 端末充足率 100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 故障した端末の修理等を行うとともにクラウドでのネットワーク監視、学習用タブレット端末のサポートセンターなどを活用しながら、校内のICT環境の保守管理を行った。 また、ICT担当教員を対象として、学習指導へのICTの活用に関する研修を米子市とともに開催し、参加者を通じて教職員全体のスキルアップを図った。		
	【成果】 学習用タブレット端末及びネットワーク機器の故障等に機動的に対応し、故障等による学習環境への影響を最小限に留めることができた。特に、タブレット端末の軽易な修繕については職員が行うことにより、機動的で柔軟な対応が可能になるとともに、修繕費用の軽減も図ることができた。 研修を行うことにより、教員のスキルアップにつながった。		
	【数値目標の実績値】 端末充足率 100%		
6 課題・今後の対応	今後は、大量の端末・ネットワーク機器を維持するとともに、適切に更新を行っていくことが大きな課題となる。 学習中の端末のさらなる利活用を推進するため、教職員の活用レベルに合わせた研修を計画、実施する。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-5	所管課	こども支援課
	項目名	通学路の安全確保		
	概要	生徒が安全に安心して通学するため、米子市通学路交通安全プログラムに沿った形で、関係機関が連携して危険箇所の安全対策を推進し、通学路の安全確保を図る。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実		◎
取組状況の総括	【成果】			
	関係機関が連携して危険箇所の合同点検を行うことで、ハード又はソフト面から実施可能な対策を協議・検討し、状況に応じた対策を実施することができた。			
取組状況の総括	【課題・今後の対応】			
	危険箇所の中には、ハード対策が困難な箇所もあり、通学路の変更や地域住民との連携等、ソフト対策も含めて総合的に生徒の安全を確保する必要がある。			
基本施策評価 (総合評価)	A			
評価理由	数値目標の達成状況と、継続的な取組を勘案し、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	見守り状況を把握するため、引き続き少年育成センターなど関係機関と連携して、通学路の安全確保に努めてほしい。			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-5 通学路の安全確保	主な取組	①危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実
2 事務事業名	危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実	所管課	こども支援課
3 事業の概要	箕蚊屋中学校で通学路の安全点検を行い、連絡協議会で協議するとともに、教育委員会、警察、道路管理者及び学校等の関係機関が危険箇所について合同点検を実施し、通学路の安全対策を実施する。		
4 目 標	【目標】 連絡協議会を開催し、すべての新規危険箇所の点検を行い、通学路の安全対策を実施する。		
	【前年度からの改善方法】 引き続き交通安全をはじめ、通学路の総合的な安全対策を進める。		
	【数値目標】 新規危険箇所のうち、ハード又はソフト対策を実施した箇所の割合 100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 連絡協議会（参加者：学校代表、警察、道路管理者、教育委員会事務局）を開催した。 また、新規危険箇所（全3箇所）について合同点検を行い、ソフト対策を実施した。		
	【成果】 関係機関が連携して危険箇所の合同点検を行うことで、ハード又はソフト面から実施可能な対策を協議・検討し、状況に応じた対策を実施することができた。		
	【数値目標の実績値】 新規危険箇所のうち、ハード又はソフト対策を実施した箇所の割合 100%		
6 課題・今後の対応	今後も引き続き、連絡協議会の開催及び合同点検の実施を通して危険箇所対策を検討・実施する。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	1-6	所管課	こども施設課 学校教育課
	項目名	学校図書館の充実		
	概要	心豊かな感性を育み、自ら学ぶ力を育む学校図書館は、子どもたちの健全育成と学習支援を行う重要な拠点であり、蔵書数の充実に加えて、本の読み聞かせや朝読書など、生徒に読書に興味を持たせ、親しめる図書館づくりに努める。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学校図書館運営事業		○※
取組状況の総括	【成果】			
	<p>適切に図書の購入、入替を行うことにより蔵書全体の充実を図っており、蔵書数は図書標準を達成している。</p> <p>通年で学校司書を配置して図書館活動の充実を図る体制を整えており、貸出冊数についても、学校全体が新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて通常と異なる運営とならざるを得ない中、前年度の実績を上回った。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	【課題・今後の対応】			
	<p>新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類に移行したことに伴い、改めて、学習支援、読書支援の拠点としての活動を充実させていく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	蔵書数、貸出冊数ともに前年度上回ったため。			
教育委員の 意見・指摘	<p>学校図書館の運営が新型コロナウイルス感染症対策のために通常通りではなかったものの、数値目標や学校図書館の蔵書数が図書標準を達成したことは評価できる。</p> <p>夏季休業期間中も開館するなど、学校図書館の取組をより一層充実させてほしい。</p>			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	1-6 学校図書館の充実	主な取組	①学校図書館運営事業
2 事務事業名	学校図書館運営事業 学校運営標準経費	所管課	こども施設課 学校教育課
3 事業の概要	学校司書と司書教諭とが連携し、朝読書や読み聞かせ、調べ学習など、子どもたちを本や読書に親しませる活動を推進することにより、生徒一人当たりの貸出冊数の増加に努める。		
4 目標	【目標】 蔵書の充実を図るとともに、夏季休業期間の開館により、生徒の読書量を増加させるとともに、質の向上した読書を定着させる。 また、学習の場としての利用や自由研究の相談により、主体的・対話的で深い学びの実現へつなげる。		
	【前年度からの改善方法】 夏季休業期間中に学校図書館を開館し読書活動及び学習活動を充実することで、生徒の読解力を高め学力の向上を図るとともに、自由研究等とおして情報活用能力をさらに育成する。		
	【数値目標】 ・蔵書冊数 13,905冊 (前年度実績) ・年間貸出冊数 11,169冊 (前年度実績)		
5 取組状況・成果	【取組状況】 蔵書の購入及び適切な入替を行いながら、蔵書の充実に努めた。通年で学校司書を配置し、夏季休業期間中も開館日を設定した。また、老朽化した学校図書館システムの更新を行った。		
	【成果】 蔵書数は引き続き図書標準を達成している。(標準達成率:102.4%) 貸出冊数については、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受ける中、前年度の実績を上回った。		
	【数値目標の実績値】 ・蔵書冊数 13,920冊 ・年間貸出冊数 12,739冊		
6 課題・今後の対応	夏季休業期間中の開館日を増やすことで、生徒の学習の場を提供するとともに、貸出冊数の増加につなげる。 学校司書・司書教諭が連携し、教職員の教材準備への援助・協力を行うことにより、授業での学校図書館利用の増加を図る。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	2-1	所管課	学校教育課
	項目名	確かな学力を身につけた子どもの育成		
	概要	<p>「生きる力」を育むためには、知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習意欲などの確かな学力の育成が必要である。生徒の実態として、習得した知識を活用する力を伸ばすことや計画的な家庭学習の定着などに課題がある。</p> <p>そこで、今後は、全教育活動を通して育む学力形成、子ども一人一人に応じたきめ細かな指導、小・中学校で連携した教育、家庭との連携などに取り組む。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	学力の向上を図る学びの充実		○
	②	特別支援教育・インクルーシブ教育の推進		◎
	③	外国語・英語教育の充実		○
	④	情報教育とICT活用による授業の充実		◎
取組状況の総括	【成果】			
	<p>とっとり学力・学習状況調査において、国語について良好な結果が得られた。学校支援員を配置することで、関わった生徒の状況が好転した。ICTを有効活用するためのスキルアップ研修等を行った結果、ICT機器を活用することによる学習への有用感を感じる生徒が増加した。</p>			
取組状況の総括	【課題・今後の対応】			
	<p>生徒一人一人の学力向上に向けて、教員の授業(指導)力向上や、学力調査結果の分析に基づく新たな施策を講じながら取り組む必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	A			
評価理由	学力向上の安定化に課題があるものの、各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	学校の働き方改革として、教員の時間外勤務の縮減に取り組んでいるが、依然として教員は多忙であるので、生徒の学力向上に集中して取り組める環境を整える必要がある。			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成	主な取組	①学力の向上を図る学びの充実
2 事務事業名	とっとり学力・学習状況調査	所管課	学校教育課
3 事業の概要	中学1・2年生を対象とした「とっとり学力・学習状況調査」を実施するとともに、結果を分析することによって課題解消に向けての取組を行う。		
4 目 標	【目標】 「とっとり学力・学習状況調査」の結果を分析し、課題解決に向けて指導方法の工夫改善を図る。		
	【前年度からの改善方法】 「とっとり学力・学習状況調査」において、生徒の経年比較及び生徒アンケートの結果分析を行い、課題把握と学級経営、授業内容の改善を図る。前年度調査結果では、特に数学科での学力に課題が見られたことから、学力保障及び授業改善に資するための教職員研修を実施する。		
	【数値目標】 「とっとり学力・学習状況調査」において、各学年各教科全4調査で県の学力レベルとほぼ同値または上回る。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 「とっとり学力・学習状況調査」では、県と連携し、正答率、学力レベルの伸びに加え、学習方略、非認知能力を踏まえた評価、分析をすることで、学級経営、授業内容、個に応じた支援について課題把握及び改善を行った。		
	【成果】 「とっとり学力・学習状況調査」は、学力レベルにおいて全4項目中1項目で県を上回り、3項目でほぼ同値だった。		
	【数値目標の実績値】 「とっとり学力・学習状況調査」 県学力レベルとの比較 (◎上回る ○ほぼ同値 △下回る) 国語 中1○ 中2◎ 数学 中1○ 中2○		
6 課題・今後の対応	「とっとり学力・学習状況調査」を引き続き経年で分析し、各学年及び生徒の状況を深く把握するとともに、課題を改善するための取組を行うことで学力保障、学力向上を図っていく。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子ども の育成	主な取組	②特別支援教育・インク ループ教育の推進
2 事務事業名	にこにこサポート事業 通級指導教室整備事業	所管課	こども支援課 学校教育課
3 事業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や生徒の状況に応じて学校支援員を配置し、通常の学級に在籍する発達障がいの可能性のある生徒をはじめとする支援の必要な生徒に対して、支援を行う。 ・通級指導が必要な生徒に対して、適切かつ効果的な指導体制を整備する。 		
4 目 標	【目標】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校や生徒の状況を把握し、適正に学校支援員を配置する。また、支援の必要な生徒に対して、適切な支援を行う。 ・通級指導が必要な生徒に対して、適切かつ効果的な指導体制を整備する。 		
	【前年度からの改善方法】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの聞き取り等をもとに、支援の必要な生徒の実態を把握する。また、担任と協力しながら支援計画を作成、支援に必要な教材等の準備を行う。 ・通級担当者と情報交換会を毎月実施し、通級指導期間や入級申請方法等の見直しを行う。 		
	【数値目標】 ①学校支援員を1名以上配置する。 ②通級待機生徒数が参考値と同値(参考値R3・・・0人)		
5 取組状況・成果	【取組状況】 <ul style="list-style-type: none"> ・支援の必要な生徒の実態把握に努め、学校のニーズに応じて学校支援員を1名配置した。また、担任等と連携し、支援の計画を立てたり、教材の準備をしたりしながら、支援の必要な生徒の実態に合った支援を行った。 ・通級指導の巡回方式により、多くの生徒が入級し、改善退級することができた。 		
	【成果】 <ul style="list-style-type: none"> ・学校支援員が関わったほぼ全ての生徒の状況が好転した。 ※好転した例 <ul style="list-style-type: none"> ・登校日数が増加した。 ・教室等で落ち着いて過ごせるようになった。 ・教科書等の準備ができない生徒が、しっかりと準備を行い、集中して学習に向かえるようになった。 ・通級の巡回指導により、学校と連携しながら指導ができるようになり、改善退級する生徒が増え、新規入級できる生徒が増えた。 		
	【数値目標の実績値】 ①学校支援員を1名配置した。 ②通級待機生徒数0人		
6 課題・今後の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・1人の学校支援員が支援にあたることのできる生徒数には限りがあり、支援が十分に行き届かないことがある。より実態に即した配置に努めていきたい。 ・改善退級した生徒に対して、退級後のフォローアップ体制を充実させる必要がある。 		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子ども の育成	主な取組	③外国語・英語教育の充実
2 事務事業名	英語指導助手活用事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	英語指導助手(以下「ALT」という。)を配置し、外国語(英語)科の時間に活用し、生徒の外国語に係る資質・能力の育成に努めるとともに、諸外国の多様な生活や文化を理解し、尊重する態度を育成する。		
4 目 標	【目標】 ALTを活用し、外国語によるコミュニケーションの場を充実させることで、生徒の外国語に係る資質・能力の育成及び諸外国の多様な生活や文化を理解・尊重する態度を育成する。また、教職員への研修体制を整備し、中学校における外国語(英語)科の指導体制の充実及び授業力向上を図る。		
	【前年度からの改善方法】 ALTを活用した指導者研修会「English Park In 米子市」のさらなる内容改善と動員数の増加を図るため、回数増に加え、委託業者と連携した教職員研修「English Park For Teacher」を計画し、実施する。		
	【数値目標】 ・全学級におけるALTによる授業の実施 ・「English Park In 米子市」の実施 3回 うち「English Park For Teacher」の計画・実施 1回		
5 取組状況・成果	【取組状況】 中学校での外国語(英語)科の時間に活用した。 委託業者、ALT、各学校及び市が連携し、「English Park In 米子市」を2回実施した。2回とも「English Park For Teacher」として実施し、ALT6名と児童との交流活動の参観に加え、スモールトークについての演習を行った。		
	【成果】 ALTを配置し、全学級で質の高い外国語の指導を行うことができた。「English Park In 米子市」では、会場校以外の教職員も参加し、外国語活動及び外国語(英語)科の授業力向上を図ることができた。		
	【数値目標の実績値】 「English Park In 米子市」の実施 2回 うち「English Park For Teacher」の実施 2回		
6 課題・今後の対応	・全学級においてALTを活用した授業を実施した。 ・「English Park In 米子市」の開催回数を増やす。うち数回を、ALT主導のアクティビティを行う「English Park For Students」として実施するとともに、教職員研修「English Park For Teacher」を計画し、実施する。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成	主な取組	④情報教育とICT活用による授業の充実
2 事務事業名	情報教育普及事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	情報教育の充実を図ることにより、発達段階に応じた情報活用能力を身につけ、情報手段を適切かつ主体的に活用できる生徒を育成する。また、GIGAスクール構想を踏まえ、教職員の指導体制の充実を図るとともに、生徒が主体的にICTを活用することができる力を育む。		
4 目 標	【目標】 教職員の情報機器活用能力の向上を図るとともに、生徒が主体的に情報を収集、処理、発信するための基礎的能力の育成及び環境整備に努める。		
	【前年度からの改善方法】 引き続き研修会を実施したり、各種学力調査生徒質問紙のICT活用に関する内容について分析したりすることで、学校及び生徒の実態について把握し、より有効なICT活用の取り組みについて検討、実施する。		
	【数値目標】 全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に対する肯定的回答が全国平均値を上回る。 〈全国平均値〉R4…92.6%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 研修会では、教職員の更なるスキルアップを図るとともに、生徒がより主体的に学ぶための端末利用やソフト活用について研修を行った。		
	【成果】 研修では、基本的な操作スキルに加え、授業の中での有効なタブレット端末の活用方法について理解を深め、授業改善を図ることができた。		
	【数値目標の実績値】 全国学力・学習状況調査生徒質問紙調査 「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか」に対する肯定的回答 R4…93.3%		
6 課題・今後の対応	研修、実態把握、分析等を引き続き行いながら、生徒がより主体的に取り組んだり、個に応じた学びを選択したりできるような授業内容を目指すとともに、それを実現するためのICT環境の整備を図る。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	3-4	所管課	生涯学習課 こども政策課 学校教育課
	項目名	学びあう地域づくりの支援		
	概要	子どもたちを取り巻く環境の著しい変化に伴い、学校が抱える課題は複雑化・多様化しており、学校の努力だけで解決するには限界がある。そこで、コミュニティ・スクールの導入を進めるとともに、目指す子ども像の実現に向けて地域の様々な団体や住民がゆるやかにつながり、地域学校協働活動に取り組む。		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	地域とともにある学校づくり		○
	②	地域学校協働活動の推進		○※
取組状況の総括	<p>【成果】 箕蚊屋中学校区において、コミュニティ・スクール準備会設置に向けた制度の説明等を行い、コミュニティ・スクールの導入について、地域の代表者等の理解を得ることができた。 学校の実情に応じて、地域住民のボランティアを活用し、除草作業などの環境整備や登下校の見守りなどの地域学校協働活動を実施することで、様々な地域住民と触れ合い、生徒の学校生活の充実を図ることができた。</p>			
	<p>【課題・今後の対応】 新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類になったことで、今後、活動が活発化すると考えられるが、引き続き感染防止策を講じながら、安心安全な形で事業を実施していく必要がある。 コミュニティ・スクールの導入に向けた準備を進め、導入された際には、学校と地域をつなぎ、地域学校協働活動をコーディネートするための地域学校協働活動推進員を配置していく。 地域学校協働活動の更なる推進のため、地域人材の確保が課題である。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	B ※新型コロナウイルス感染症の影響あり			
評価理由	コミュニティ・スクールの導入に向けた準備を進めることができた。また、地域学校協働活動を実施することで、様々な地域住民と触れ合い、生徒の学校生活の充実を図ることができたため、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	今後、箕蚊屋中学校区で導入を予定しているコミュニティ・スクールと日吉津村のコミュニティ・スクールとが交流を行い、より効果的な取組となるようにしてほしい。			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主な取組	①地域とともにある学校づくり
2 事務事業名	コミュニティ・スクール推進事業	所管課	生涯学習課 学校教育課
3 事業の概要	地域住民等が学校運営に参画し、地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えるため、コミュニティ・スクールの導入を推進する。 (小・中学校9年間の一貫した教育の実現に向けた、学校と家庭、地域住民による熟議の場の設定)		
4 目標	【目標】 学校関係者や地域住民を対象に、コミュニティ・スクールの導入に向けて制度を説明し、理解の促進を図る。		
	【前年度からの改善方法】 学校運営協議会の設置に向け、協議がスムーズに進むための支援を行う。		
	【数値目標】 箕蚊屋中学校におけるコミュニティ・スクール導入に向けた体制準備を行う。		
5 取組状況・成果	【取組状況】 箕蚊屋中学校区において、コミュニティ・スクール準備会の設置に向けた制度説明等を各地区の代表者等に行った。 また、コミュニティ・スクール準備会について、市・村の教育委員会と情報共有し、連携を図った。		
	【成果】 コミュニティ・スクールの導入について、公民館長等の理解を深めることができた。		
	【数値目標の実績値】 箕蚊屋中学校におけるコミュニティ・スクール導入に向けた体制の準備ができた。		
6 課題・今後の対応	コミュニティ・スクールの導入に向け、学校関係者や地域住民への周知や理解を広げていく必要がある。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	3-4 学びあう地域づくりの支援	主な取組	②地域学校協働活動の推進
2 事務事業名	学校支援ボランティア	所管課	こども政策課
3 事業の概要	学校支援ボランティアなど既存の活動を継承しながら地域学校協働活動を推進し、豊かな人間性と創造力を持ち、地域に愛着や誇りを持つ生徒の育成を図る。		
4 目 標	【目標】 学校の実情に応じて、地域住民のボランティアを活用し、生活や学習の支援、環境整備、安全パトロールなどの地域学校協働活動を行い、生徒の学校生活の充実を図る。		
	【前年度からの改善方法】 コロナ禍において、規模の縮小や感染予防策の実施など実施形態を工夫しながら、引き続き事業を実施する。		
	【数値目標】 地域学校協働活動に参加する地域住民の数（年間延べ人数） 150人		
5 取組状況・成果	【取組状況】 学校の実情に応じて、地域住民のボランティアを活用し、除草作業などの環境整備や登下校の見守りなどの地域学校協働活動を実施した。		
	【成果】 地域学校協働活動を実施することで、様々な地域住民と触れ合い、生徒の学校生活の充実を図ることができた。		
	【数値目標の実績値】 地域学校協働活動に参加する地域住民の数（年間延べ人数） 130人		
6 課題・今後の対応	学校支援ボランティアなど地域学校協働活動の内容をより一層充実させるために、引き続き多様なボランティア人材の掘り起こしが必要である。		
7 個別事業評価	○ ※新型コロナウイルス感染症の影響あり		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(基本施策)

基本施策	番号	4-1	所管課	学校教育課
	項目名	健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成		
	概要	<p>子どもを取り巻く生活環境の急激な変化等の要因により、体力・運動能力の低下、二極化傾向、外的要因による健康被害等、体力向上や健康の保持増進に係る問題が喫緊の課題となっている。また、多様化する現代的課題に対して、子どもの安全・安心に対する懸念が広がっている。さらに、命の重みに対する感受性が弱まっていることが指摘されている。</p> <p>こうしたことから、小・中学校が連携して、子どもの体力・運動能力の向上、健康で安全な生活、自他の命を大切にする態度や実践力の育成に努める。</p>		
主な取組	番号	主な取組(事務事業名)		個別事業評価
	①	体力・運動能力の向上を図る取組の充実		○
	②	健康教育の充実		◎
	③	いのちの教育の充実		◎
	④	安全教育の充実		◎
取組状況の総括	【成果】			
	<p>中学校の部活動の実態を把握し、部活動指導員、運動部活動外部指導者を適切に配置するとともに、指導者研修会を通じて指導力向上を図ることができた。コロナ禍においても、外部講師を招くことで、生徒に専門的かつ効果的な指導を行うことができた。</p>			
取組状況の総括	【課題・今後の対応】			
	<p>引き続き、体力・運動能力向上を図っていくとともに、コロナ禍による生徒の心身の状況を丁寧に把握し、必要な施策を講じていく必要がある。</p> <p>コロナ禍の収束を見据え、生徒の体力・運動能力の向上及び心身の開放に資するような施策を模索する。</p> <p>部活動の地域移行に向け、様々な関係機関と連携したり、広く周知したりしつつ、計画的に準備を進めていく必要がある。</p>			
基本施策評価 (総合評価)	S			
評価理由	各事業における数値目標の達成状況と、内容的な前進を勘案し、この評価とした。			
教育委員の 意見・指摘	情報モラルだけではなく、情報リテラシーの問題も時間を取って学習してもらいたい。			

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	①体力・運動能力の向上を 図る取組の充実
2 事務事業名	体力・運動能力向上事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	発達段階に応じた適切な運動を行ったり、運動能力を高めたりするため、指導方法の工夫改善を図り、生徒の体力・運動能力の向上に努める。また、運動の楽しさや喜びを実感させることにより、生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフの実現に向けた意欲と実践力の育成に努める。		
4 目 標	【目標】 運動する機会を増やしたり、充実させたりすることによって、生徒の運動意欲、体力・運動能力の向上に努める。		
	【前年度からの改善方法】 ・中学校の運動部活動において、外部人材を増員することで、より専門的な指導によって、生徒の運動意欲と体力・運動能力の向上を図る。		
	【数値目標】 ・運動部活動の外部人材の配置数が参考値と同値または上回る。 <参考値>R3部活動指導員…1名 運動部活動外部指導者…0名		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・中学校の部活動の実態を把握し、部活動指導員、運動部活動外部指導者を配置するとともに、県教育委員会と連携し、指導者研修会を実施した。		
	【成果】 ・運動部活動において外部人材の配置を進めたことで、生徒がより専門的な指導を受けることができ、運動意欲等の向上につながった。		
	【数値目標の実績値】 ・R4部活動指導員…1名 運動部活動外部指導者…1名		
6 課題・今後の対応	部活動の地域移行に向け、在り方協議会において今後の進め方について検討したり、モデル競技を実施したりするなど、準備を進める。		
7 個別事業評価	○		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	②健康教育の充実
2 事務事業名	健康教育推進事業	所管	学校教育課
3 事業の概要	心身に様々な影響を与え、健康を損なう原因となる喫煙、飲酒、薬物乱用やメディア依存などに関する理解を深めるとともに、健康を害する状況に陥らないようにするための思考力・判断力の育成に努める。 人間の誕生の喜びや生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力の育成に努める。		
4 目標	【目標】 メディア依存に関する学習をとおして、自他の生命を尊重し、健康に関する知識、思考力、判断力の育成に努める。		
	【前年度からの改善方法】 全国的に、メディア依存の傾向が近年増加傾向にある。こうした実態をふまえた健康教育を検討するよう、情報提供及び指導を行う。		
	【数値目標】 ・月曜日から金曜日に、1日1時間以上テレビゲームをする割合が全国平均と同値または下回る。 R3…80.1% ・薬物乱用防止についての学習を複数学年で実施する。 R3…100%		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・専門機関（警察）と連携を取り、生徒の発達段階に応じた学習を行った。 ・健康相談等であがった課題について、専門機関との連携を含めた実践的で効果的な健康教育に取り組んだ。		
	【成果】 専門機関（警察）と連携したことで、生徒がより専門的に学び、健康や情報モラルに対する意識を高めることができた。また、自他の生命を尊重し、健康に関する知識、思考力、判断力を身に付けることができた。		
	【数値目標の実績値】 ・月曜日から金曜日に、1日1時間以上テレビゲームをする割合 R4…79.1% ・心の健康問題、薬物乱用防止についての学習を複数学年で実施 R4…100%		
6 課題・今後の対応	・今後も、メディア依存の割合が増加するものと思われる。生徒だけでなく、保護者への啓発についても取り組んでいく必要がある。 ・生徒が抱える心の健康問題に引き続き留意しつつ、その課題の解決に向けて、学校へ情報提供及び指導を行っていく必要がある。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	③いのちの教育の充実
2 事務事業名	自他の命を大切に する子どもの育成事業	所管	学校教育課
3 事業の概要	生徒が生命の誕生や生きることの尊さを知り、自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育む取組を全教科・全領域において実践する。		
4 目標	【目標】 専門機関と連携しながら、生徒が自他の生命を尊重しようとする態度や実践力を育むための教育の充実を図る。生徒が自主的・自発的にいじめのない安心・安全な楽しい学校づくりに取り組む。		
	【前年度からの改善方法】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況においても、リモート等によって外部機関との連携を図ることができるようにする。 ・いじめのない安心・安全な楽しい学校にするために、校区で取組方法を工夫する。		
	【数値目標】 ・いのちの教育を専門機関と連携して行う…年1回以上 ・安心、安全な学校づくりの推進に向けた小・中合同リーダー研修会の実施…年2回以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・発達段階に応じて、身体や命の大切さについて学習した。また、2、3年生においては、外部講師から二次性徴や命の誕生について専門的な話を聞く機会を設けた。 ・いじめのない安心・安全な楽しい学校にするために、校区で自治の取組の充実を図った。		
	【成果】 ・外部講師から命の大切さについて教わることで、自他の命の尊さを学ぶことができた。 ・安心・安全な楽しい学校づくりの実現に向けて、校区で小・中合同リーダー研修会を実施し、校区の自治の取組の充実につながった。		
	【数値目標の実績値】 ・いのちの教育を専門機関と連携して行う…年2回 ・安心・安全な学校づくりの推進に向けた小・中合同リーダー研修会の実施…年3回		
6 課題・今後の対応	・専門機関と連携したいのちの教育の更なる充実を図る。 ・いじめのない安心・安全な楽しい学校づくりに向けて、アフターコロナをふまえ、校区の児童生徒がつながり、安心・安全な学校づくりの充実を図る。		
7 個別事業評価	◎		

令和4年度 事務の管理及び執行状況の点検・評価票(個別事業)

1 基本施策 (番号・項目名)	4-1 健康でたくましく、命を大切に する子どもの育成	主な取組	④防災・安全教育の充実
2 事務事業名	安全・防災教育実施推進事業	所管課	学校教育課
3 事業の概要	生徒が危険から身を守るために、それぞれの要因の理解や予測する力、状況に応じた適切な対応等の実践力の育成に努める。また、災害への備えや、災害発生時及び発生後に周囲の状況に応じて安全に行動することなど、災害から身を守る態度や実践力の育成に努める。		
4 目標	【目標】 安全及び防犯関連の学習において、専門機関と連携しながら生徒への指導の充実を図る。具体的な場面を想定した防災教育を通して、生徒が災害から身を守る態度や実践力を育む。		
	【前年度からの改善方法】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外部機関と連携した防犯教室等の実施が困難になることが予想されるため、リモートや校内放送を活用するなど、指導の工夫・充実を図る。 ・避難訓練について、緊急地震速報やJアラートを活用するなど、具体的な場面を想定して行う。		
	【数値目標】 ・専門機関と連携した防犯教室実施…年1回以上		
5 取組状況・成果	【取組状況】 ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大の中であったが、警察職員を外部講師として招聘しての防犯教室を実施することができた。 ・避難訓練においては、火災・地震等のケースを想定して実施した。		
	【成果】 ・専門機関から情報モラルや交通安全に関する話を直接聞くことで、非行防止への意識向上や交通マナーへの理解を深めることができた。 ・避難訓練においては、避難訓練の時間を生徒が知らない状況で行うことで、生徒が自らの身を守るための判断力を身につけることにつながった。		
	【数値目標の実績値】 ・専門機関と連携した防犯教室を実施…年1回		
6 課題・今後の対応	新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ、これまで控えていた外部機関と連携した防犯教室等の再び積極的に実施していく。 避難訓練においては、地震・火災の他にも不審者侵入等、様々なケースを想定した避難訓練の実施に取り組んでいきたい。		
7 個別事業評価	◎		

10 学識経験者の知見

点検・評価の客観性を高めるため、教育に関し学識経験を有する方の知見を活用することとし、令和5年8月8日に次の方々から点検・評価に関する意見聴取を行いました。

小谷 幸久 氏（米子市社会教育委員、米子市文化協議会会長）

高橋 喜美子 氏（就将公民館運営審議会委員、元米子市小・中学校PTA会長）

西垣 滋 氏（元米子市立小学校長）

学識経験者による主なご意見・指摘については、次のとおりです。

全体を通したものとして、数値目標を達成した事業については、次年度以降、目標設定を見直し、米子市教育振興基本計画の目標が達成できるように取り組んでほしいという指摘がありました。

番 号	学識経験者の意見・指摘
基本施策	
1-1	
豊かな心と創造性をもった子どもの育成	学校教育においては、数値目標がそぐわない側面もあるので、全国平均値も含め多面的な数値で事業を評価することが大切であると思う。
1-2	
安全で安心な学校施設の改善	学校施設の改修、整備については、引き続き学校現場の要望をよく聞いて事業を行ってほしい。
1-4	
学校ICT環境の整備	今後、大量のタブレット端末の更新が予想されるので、十分に検討しておくこと。
1-6	
学校図書館の充実	図書が子どもの心を育てたり、学習に使われている。引き続き古い本を新しい本に入れ替えながら蔵書冊数を確保し、手を抜くことなく、学校図書館の充実を推し進めていただきたい。
2-1	
確かな学力を身につけた子どもの育成	情報教育普及事業において、多額の費用を投じてタブレット端末を設置したことが無駄にならないように、しっかり活用してほしい。実際の授業で使えるように、その頻度をどう上げるかというのは、学校教育の大きなポイントのような気がしている。

米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
<p>1 心を育む学びのあるまち</p> <p>心の豊かさを持つとともに生きがいがあるふれる豊かな人生を送ることができるよう、人と人との関わり合いの中で、互いに認め合いながら心の交流を図ることのできる学びの機会の提供に努めます。</p>	<p>互いの違いを認め合いながら、自他の命の大切さを意識し他人を思いやれる心と態度が備わっています。</p> <p>自ら率先してあいさつを交わし、社会のきまりやモラルが守れるまちづくりを目指しています。</p> <p>あいさつ、感謝など自分の気持ちの表露ができるとともに、課題解決のための行動がとれます。</p>	<p>1-1 豊かな心と創造性をもった子どもの育成 学校教育課</p> <p>1-2 安全で安心な学校施設の改善 こども施設課</p> <p>1-3 環境に配慮した学校教育環境整備の推進 こども施設課</p> <p>1-4 学校ICT環境の整備 こども施設課 学校教育課</p> <p>1-5 通学路の安全確保 こども支援課</p> <p>1-6 学校図書館の充実 こども施設課 学校教育課</p>	<p>①心の教育の充実 ②人権教育の充実 ③生徒指導の充実 ④ふるさと・キャリア教育の充実</p> <p>①学校施設大規模改修・非構造部材の耐震化 ②学校施設整備(改修)事業</p> <p>①学校施設維持管理事業 ②学校施設のバリアフリー化事業</p> <p>①ICT機器整備事業</p> <p>①危険箇所における安全対策と効果把握による対策の改善・充実</p> <p>①学校図書館運営事業</p>
<p>2 学ぶ楽しさのあるまち</p> <p>学んだことをいかしながら創造力と実践力が育まれるよう、どの世代においても様々な体験を通して発見や豊かな学びが獲得できる場の提供に努めます。</p>	<p>学ぶ楽しさを知り、自ら進んで学ぼうとする姿勢があります。</p> <p>生涯を通して学ぶ楽しさを身につけ、学んだことを生活や行動、まちづくりにいかします。</p>	<p>2-1 確かな学力を身につけた子どもの育成 学校教育課 こども政策課 こども支援課 こども相談課</p> <p>2-2 子ども地域活動の支援 地域振興課</p> <p>2-3 子ども読書活動の推進 生涯学習課 市立図書館</p> <p>2-4 公民館運営の充実 地域振興課</p> <p>2-5 公民館の整備 地域振興課</p> <p>2-6 生活に役立つ図書充実 生涯学習課 市立図書館</p>	<p>①学力の向上を図る学びの充実 ②特別支援教育・インクルーシブ教育の推進 ③切れ目ない支援体制の推進 ④外国語・英語教育の充実 ⑤情報教育とICT活用による授業の充実</p> <p>①子ども地域活動の支援</p> <p>①乳幼児期から本に親しむ機会の創出 ②子ども読書活動推進事業の実施</p> <p>①広報活動 ②社会教育講座 ③体育・文化事業 ④ひとづくり・まちづくり推進事業</p> <p>①公民館施設等整備事業 ②明道公民館整備事業 ③生活充実図書図書整備事業</p>

米子市教育振興基本計画体系図

基本目標	目指す市民の姿	基本施策	主な取組
<p>3 郷土で育む学びのあるまち</p> <p>米子の財産である豊かな自然や歴史・文化遺産を保護・保存・継承・活用していくとともに、その魅力と価値を発信しながら、市民が郷土に誇りを持つる字ひの創進に努めます。</p>	<p>○ 米子の地理や歴史を学びながら、米子の自然や伝統・文化を理解しています。</p> <p>○ 郷土である米子を愛し、誇りを持ってまちづくりを進めています。</p>	<p>3-1 学校給食における地産地消の推進</p> <p>学校給食課</p> <p>3-2 生涯学習活動の推進</p> <p>生涯学習課</p> <p>3-3 歴史的文化的遺産の保存と活用</p> <p>文化振興課</p> <p>3-4 学びあう地域づくりの支援</p> <p>学校教育課 こども政策課 生涯学習課</p>	<p>主な取組</p> <p>①学校給食用食材の県産品利用の推進と充実 ②生産者と児童生徒の交流の実施 ③児童生徒から募集した地元食材を使用した献立の実施 ④郷土料理等の積極的な導入と継承</p> <p>①米子人生大学の開催 ②よなごア카데미の開催 ③二十歳を祝う会の開催</p> <p>①文化財保存活用地域計画の策定 ②文化財の保存整備の推進 ③文化財の活用の展開</p> <p>①地域とともにある学校づくり ②地域学校協働活動の推進 ③地域学校協働活動推進員の配置</p>
<p>4 健康で安心して学べるまち</p> <p>生涯にわたり健康で明るく活力ある生活を送ることができるよう、健康に関する情報発信や啓発を行いながら、誰もが目的や年齢等に応じたスポーツに親しむことができ、場の提供と全ての施設で安心して学べる環境整備に努めます。</p>	<p>○ 食生活の大切さを理解して健康的な体づくりを目指しています。</p> <p>○ 規則正しい生活と適切な食生活を送り、健康な体づくりに努めています。</p>	<p>4-1 健康でたくましく、命を大切にする子どもの育成</p> <p>学校教育課</p> <p>4-2 学校における食育の推進</p> <p>学校給食課</p>	<p>①体力・運動能力の向上を図る取組の充実 ②健康教育の充実 ③いのちの教育の充実 ④防災・安全教育の充実</p> <p>①各教科等における食に関する指導の実施 ②給食の時間における食に関する指導の実施 ③食育に関する保護者への啓発と広報</p>